UPL

トリコデソイル®

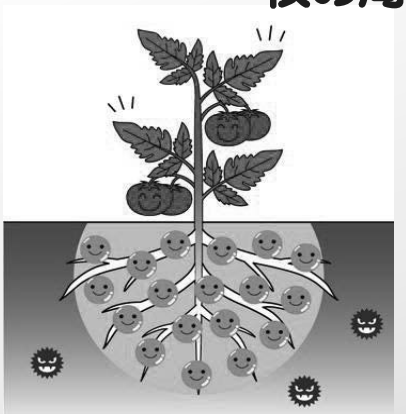
有用微生物入り土壌改良資材

2026年8月現在

●内 容 物　　トリコデルマ・ハルジアナム　T-22株
　及び含有量：1.0×10⁹（胞子/製品g）
●規 格　　：250g
●施 用 量　　：125～250g/10a（1～3ヶ月ごとに施用）
●施 用 方 法：土壌灌注(500～2000倍に希釈)
☆詳しくは、製品の箱に記載されている「対象作物と施用基準量」をご覧ください。

●主 な 効 果：土壌消毒後に有用微生物を投入することにより、病害の発生しにくい土壌環境にする資材です。
：根圏に有用菌を入れることで、作物の健全な生育を助けます。

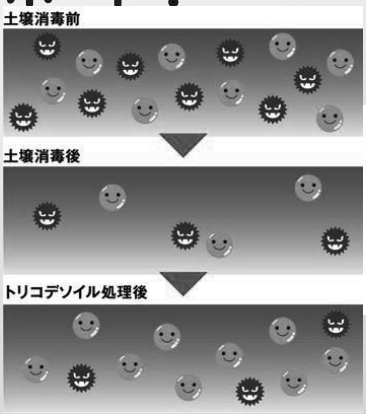
根の周りを守り、土づくりをサポート！



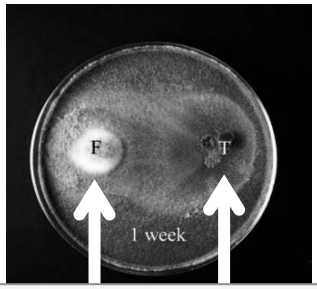
作物の根の周り(根圏)は根から分泌される有機物などの栄養素が豊富にあるので、土壌微生物が繁殖しやすい環境といえます。

土壌微生物の中には、ピシウム菌・リゾクトニア菌・フザリウム菌などのように作物に寄生して害を及ぼすものもいます。

そこで、作物に害を及ぼさず、生育が旺盛なトリコデルマ菌(善玉菌）を根の周りの栄養素を使って増殖させることで、害のある微生物の増殖を抑え、作物の生長を促します。



すばやく悪玉菌のすみかを奪う トリコデルマ・ハルジアナム菌！



フザリウム菌 と トリコデルマ菌の対峙培養1週間後の状態。
トリコデルマ菌の方が生育が早い！

トリコデソイルの主成分のトリコデルマ菌は土壌病害の菌と比較すると生育が早く、土壌中の菌の栄養を先に奪ってしまうと報告されています。　（左写真）

また、トリコデルマ菌は土壌病害の菌に寄生して、生育できないようにすると報告されています。（右写真）

出典：C. R. Howell, Mechanisms Employed by *Trichoderma* Species in the Biological Control of Plant Diseases: The History and Evolution of Current Concepts, Plant Disease, vol.87 P.4-10, 2003

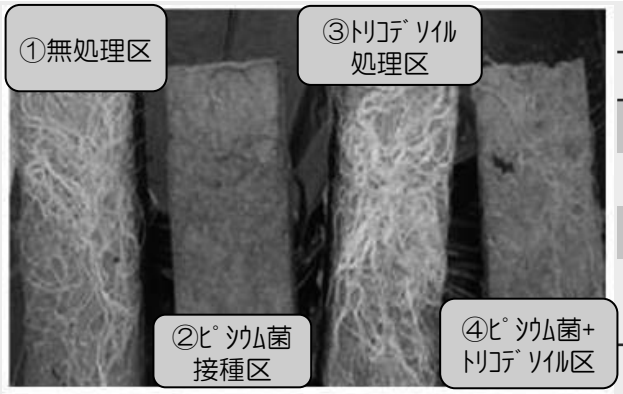


ピシウム菌に絡みついて生育をストップ！

トマトでの試験事例

試験作物：　トマト（品種：Trust）　　試験場所・年度：　カナダ・2003

試験機関：　Le Centre de référence en agriculture et agroalimentaire du Québec (CRAAQ)
栽培方法：　ロックウール
試験区　：　①無処理区（ピシウム菌、トリコデソイルなし）　②ピシウム菌接種区
　③トリコデソイル処理区　④ピシウム菌接種＋トリコデソイル処理区



【表】　各区の収量、収穫果数

試験区	収量(kg)	収穫果数
①無処理区	254.3	978
②ﾋﾟｼｳﾑ菌接種区	234.4 (92)	963 (98)
③ﾄﾘｺﾃﾞｿｲﾙ処理区	284.4 (112)	1,197 (122)
④ﾋﾟｼｳﾑ菌接種＋ﾄﾘｺﾃﾞｿｲﾙ処理区	273.4 (108)	1,126 (115)

＊(　)内は無処理区を100としたときの相対値

【写真左】　ロックウールの根の様子

●トリコデソイル処理により、収量が12%、収穫果数が22%増加した。
●上記写真の②区では減収となったが、同じピシウム菌の存在下でも④区のロックウールは変色したにもかかわらず、トリコデソイルを処理したことにより①区より増収した。

ICM（総合的作物管理）に適合した土壌改良資材！

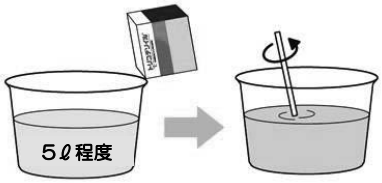
【トリコデソイル散布液の調製方法】



トリコデソイルの調製例（約10a分 250ｇ 2000倍希釈で500ℓ作る場合）

A. 濃縮液を作る

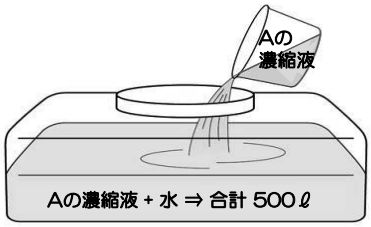
少量の水（一例として５ℓ程度）に
トリコデソイル 250gを加える。



●トリコデルマ菌の胞子を十分に懸濁させるために、少量の水で溶いて、均一な濃縮液を作ります。

B. 濃縮液を希釈する

水（この場合、495ℓ程度）を大型タンクに
加えておき、Aで作った濃縮液を入れて、
必要な希釈液総量（この場合、500ℓ）を作る。

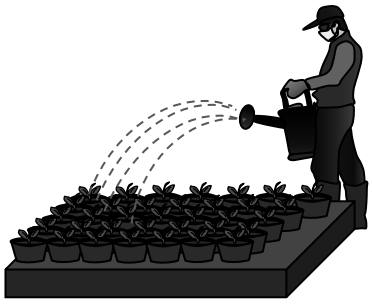


所定濃度の希釈液を散布器・じょうろ・灌水チューブ等で土壌灌注します。

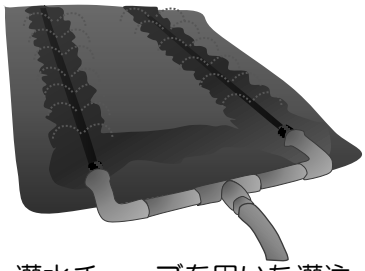
注）育苗期に使用する場合は、10a当りに植える株数に応じて水量や濃度を調整してください。



散布器を用いた灌注



じょうろによる苗灌注



灌水チューブを用いた灌注

保存

最終有効年月は箱の側面のシールに記載してあります。
入手後直ちに2～10℃の冷暗所で保存してください。

トリコデソイルに対する農薬・肥料製品の影響

2026年8月現在

本製品の主成分であるトリコデルマ ハルジアナム菌に対する影響の有無を示した表です。
この影響表は、本製品と農薬・肥料等との混用を薦めるものではありません。

ほとんど影響がないという事例を確認している。

菌 アタッキン、アミスター、アリエッティ、エムダイファー
オーソサイド、オラクル、オルフィン、キヒゲン、シグネチャー
ジマンダイセン、ストロビー、セイビアー、ダコニール
タチガレン、チオノック、トップジンM（200～6000倍）
トレノックス、パスワード、バリダシン、パレード、
フェスティバル、フルピカ、プレビクールN、モンカット
モンガリッド、ラリー、ランマン、リゾレックス、リドミル
リドミルゴールドMZ、ルビゲン

虫 アグリメック、アドマイヤー、オルトラン、ダイアジノン
ダーズバン、デナポン、トクチオン、プレバソン、マラソン
モベント、ラグビーMC

虫菌 クルーザーMAXX

草 ゴーゴーサン、スタム、ラウンドアップ　肥 亜リン酸

トリコデルマ菌の生育に多少の影響があったが、その後増殖するので、実使用上問題ないという事例を確認している。

菌 アフェット、スイッチ

影響があることを確認している。
14日間はトリコデソイルを使用しない。

菌 オンリーワン、チルト、トリフミン
トップジンM（20倍）フロンサイド*、
ベンレート、ロブラール*

*フロンサイド、ロブラールについては影響日数不明

総合的作物管理に関する情報をまとめた、「UPL CONNECT」を定期的にお届けします。配信をご希望の方は「UPL CONNECT」で検索。 UPL CONNECT
「配信希望 入力フォーム」より必要事項をご入力の上、お申し込みください。